

田舎暮らしをきっかけに全身症状が悪化した成人アトピー喘息の経過 (23 歳女性)

症例 ID：001-20-HM3 | 記録日：2015 年 2 月 8 日

1. 診断・治療前経過

幼少期からとびひがひどく、皮膚科で薬を塗っていました。小学校以降は汗をかくと関節部や耳たぶがかゆくなる程度でしたが、中学 3 年生頃から喘息が出始め、発作時には吸入を行っていました。

中学・高校時代に手や耳のかゆみ、切れがある時にはステロイドを塗っていました。21 歳頃、田舎の古民家での生活を始めた後、背中の湿疹から徐々に全身症状が悪化しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	中学・高校時代に手や耳の症状に対してステロイド外用薬を使用していました。喘息発作時には吸入も行っていました。
製品名	不明。
強度	不明。
使用期間	中学・高校時代に使用歴があります。
中止時期	成人期の悪化時には薬を好まず、背中の湿疹に対してはステロイドを使っていませんでした。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
幼少期～高校期	来院前	とびひ、関節部・耳たぶのかゆみ、喘息発作があり、手や耳にはステロイド外用薬を使用した時期がありました。
21 歳頃	来院前	田舎の古民家での生活を始めた後、背中に湿疹が出て、仕事にも影響が出始めました。
田舎暮らし約 1 年後	来院前ピーク	出先で全身が強いかゆくなり、赤く腫れ、立ってられない状態となりました。
2013 年 7 月 17 日	治療開始	実家に戻って治療に専念し、松本医院を受診しました。熱が 38 度を超え、全身が乾燥し、目が開かない状態でした。
治療 1 週間後	初期改善	熱が下がり、乾燥がましになり、目が開くようになりました。
その後約 2 週間	リバウンド期	かゆみで眠れず、皮膚が多く落ち、眉毛が抜け、人相が変わるほどの時期がありました。
治療 3 か月後	経過中	大阪での集中的な治療を終え、転居後も漢方薬を送ってもら

		いながら治療を続けました。
1 年半の経過	経過後半	良くなったり悪くなったりを繰り返しながらも、悪化しても最悪の状態まではいかなくなりました。お風呂もつらくなり、家事や好きなことができるようになりました。

4. ピーク時期

ピークは、全身が赤く腫れ、立ってられない状態になった時期と、治療開始後にかゆみで眠れず、落屑や眉毛の脱落がみられたリバウンド期です。

5. 困りごと

- ・全身のかゆみと腫れで、仕事や通常生活が難しくなりました。
- ・治療法や体調について周囲に理解してもらうことが難しく、家族との関係にも負担がありました。
- ・体調が不安定で1年間働けず、証明写真を貼った履歴書を出すことも難しい状態でした。

6. 経過のまとめ

治療開始時には発熱、全身の乾燥、目が開かない状態がありましたが、1週間で熱が下がり、乾燥がましになり、目が開くようになりました。その後、強いリバウンドを経て、1年半ほど良くなったり悪くなったりを繰り返しました。

経過後半には、悪化しても最悪の状態まではいかなくなり、お風呂に入ることがつらくなり、家事や好きなことを好きな時にできる状態になりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。